



令和8年4月7日

かみせや

地域版

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

4月号



㊦感じる心たいせつに ㊧みんなの心、みとめあい ㊨せいっぱい ㊩やってみよう やりとげよう

桜のつぼみのように

校長 小林 京子

上瀬谷小学校が1年で一番美しい季節が、やってきました。

冬季休業明けの1月の朝会で子どもたちにこんな話をしました、「今は、こんなに寒い日でも桜の木は、ぐっと耐えて、花を咲かせる準備をしているのですよ。つぼみを少しずつ膨らませて皆さんに見せる花が咲くといいなと準備しているのです。」と。子どもたちに学年のまとめの時期をしっかりと過ごしなさいと言う意味を込めた話でした。

4月の今は、本校にある桜の木々が次々に花を咲かせ、学年の花壇のチューリップも顔を出し、子どもたちの進級をお祝いしているかのようです。春を上瀬谷の地で迎える度に「今年も咲いたね、ありがとう」と球根やつぼみたちに感謝したくなります。

3月19日には、第78回卒業証書授与式が行われ、48名の卒業生たちが巣立っていきました。上瀬谷小学校では、卒業式の朝に全校で集まり「はばたけ6年生の会」が行われます。前号の本稿でもお伝えしたように節目を迎える様々な集会や活動を経ての最終日になりますが、しんとした体育館、いつもとちょっと違う服装の、そして緊張している6年生を迎え、お別れの会を行いました。お祝いの歌に、ここ数年は「空より高く」（作詞：新沢としひこ）の歌を全校で合唱し、6年生に贈っています。

人は空より高い心をもっている どんな空より高い心をもっている
だから、もうだめだなんてあきらめなくて 涙をふいて笑ってごらん
君の心よ 高くなれ 空より高く 高くなれ

2番は、海より深い心 もういやだなんて、背を向けなくてみつめてごらん信じてごらん笑ってごらん、となっていくそんな歌です。6年生は、しっかり歌詞を覚えて涙を浮かべて6年生のために精一杯歌う在校生の姿をひな壇側からじっと見つめていました。幼かった自分と重ねたり、行く道を励まされたりしながら聴いていたのでしょう。いよいよ退場となると、大粒の涙を流して泣き出す1年生もいる中、なだめながら、そして、縦割りの「きらぼか班」でかかわった下級生たちに挨拶をしながら、花道を通り、最後にもう一度、1年生に抱き付かれる6年生、小学校ならではの、時間なのでした。これが「かみせや」の魅力の一つです。

さて、卒業式後の各教室では、自分達の進級のための準備も行われていました。立派な態度で卒業式に参列した5年生の子どもたちは、すでにどんな6年生になりたいかのイメージがあります。教室を覗くと、間もなく入ってくる1年生のために入学式で迎える名前の札を作っていました。ひらがなを正しく丁寧に書く、と気合が入っている様子は健気で新鮮です。とはいえ、昨日今日はじめた準備ではなく、実は1月から、保育園の園児と交流をしたり学校説明会であいさつをしたりと着々と心を整えているのでした。入学式での1・6年生の姿も本校の魅力です。

桜のつぼみのように積み重ねたものが花開く、最上級生が子ども同士のロールモデルとなって育つ上瀬谷の子どもたち。令和8年度の「かみせや」は、今年もまた、始動しました。